（昭和五年五月二十四日 第三種郵便物認可）　昭和十二年五月十五日　千曲時報　第八十六號　（一）

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵税共五十錢）

編輯兼發行人　香山清和
發行所　長野縣上田市上田絲學專門學校
印刷所　長野縣上田市曲町　中澤印刷所

人纖と生絲に就きて

我國人纖工業は近年飛躍的發展を續け其の生産も驚異的數字に上り將又伊太利獨逸に接近せんとしてゐる。國家も纖維國策を樹立し國家不時に備へんとして鋭意研究中と聞く。我國の如き資源乏しき國に於て當然の問題である。軍需インフレの波に乗つて纖維工業の躍進は其の株式を見ても明かである。然るに生絲のみ相當の價額を維持するとは申せ他の纖維工業に較べて其の活況少きを遺憾とする次第である。我々蠶絲業に從事するもの其の競走纖維に關し留意すると同時に其の消費分野を明かにし將來を推察し愚見を述べるも無駄では無からうと考へ本稿を記した次第である。

（一）、人纖の意義並發展の經過

ステープルフアイバーには色々と意義の下し樣もあらうが纖維素から人工的に製造された纖維で毛及棉纖維の代用となり得る一種の紡績原料である。日本語では色々の言葉もあるが人造短纖維と謂ふのが一番適當の樣に思はれる。即ちフイラメントに對するフアイバーの意味である。沿革は比較的新しく約二十數年以前獨逸で初めて製造されたもので人絹製造の副産物に過ぎなかつた。歐洲大戰に際し經濟封鎖に依り獨逸は極度の纖維缺乏を來し其の代用品として此の研究に沒頭し漸く其の實用化に成功したのであるが大戰後は餘り顧られなかつた。其の後一九一〇年に至り佛國人バール・ヂラール氏は佛國特許を得次いで一九一二年英國特許を取つた。此れが人纖の工業化された最初のもので其れ以來各國競つて研究し特許が續々と現れ遂に一九二一年ケルソロットワイル會社はイーゲー會社と共同してヴイストラ・フアーゼルと稱する人造纖維を完成した。此れが世界に於ける最も古い代表的のものである。我國に於ては大正十二年頃帝國人絹が人造絹絲を戞斷してステープルフアイバーに眞似たのが最初の樣である。其の後日本絹織が外國から輸入して研究に着手し其の他學校、試驗場等で研究したのである。然る處あの滿洲事變を梯機として國際聯盟と紛擾を生じ經濟封鎖の懸念等に依り我國に非常時の聲が騷然たるに及び紡績原料の自給自足を痛感するに至り發展に拍車をかけた。昭和十年上半期は未だ試驗時代なりしも仝年下半期に至り日東紡績日本絹織等の會社により生産販賣された混紡絲が稍市場性を認めらるゝ樣になつた。然るに當時此の新興工業に注目した大日本紡、鐘紡、倉紡等早くも人纖工業に着手した。時恰も濠毛輸入制限の問題が起り國家非常時に備へる爲め國策的見地より羊毛代用品として重要なる役割を演ずる樣になつた。昭和十一年我國人纖の生産高三五〇〇万封度の驚くべき數字を占し一九三二年より一九三六年に至る五年間に約六〇倍の生産膨脹をなし伊太利獨逸に亞ぐ生産にして其の發展の顯著なる事他の追從を許さないものがある。現在我國に於ける製造會社三三工場に及び生産能力日産一一三瓲にして尙能力も愈々擴張計畫されてゐる。夫は人絹工場を少し變更すれば簡單に出來得る事とフアイバーで販賣するより之を紡績してレヤーンとなし更に進んでクロースにする方が利益が一層ある事から大紡績會社が兼營する樣になつた事も一因と考へる。

（二）、我國に於ける發展の特異性並將來

然らば我國に於て斯くも人纖の顯著なる發展をなしたる所以は宛かも棉工業に於て混棉技術の優秀が發展の一因を爲したる如く技術上又は環境上に好條件が無ければならぬ。簡單に申せば人纖は人絹と製造工程に於て大なる變りが無く之れを短かく截斷せるものである。從つて其の製造加工費の主要部は

1. 藥品を多く使用すること
2. 電力石炭等動力燃料を多く消費すること

3. 水を消費すること（軟水たること）

（即ち藥品は主として苛性曹達、硫酸、硫黄、石灰石等で熱力は人絹一封度に對し約三、五キロを要す）の三點であるが我國は一年を通じて寒暖の差が比較的少く且つ水質、電力等自然の天惠に依ろが尙技術上の適應性、低爲替、低賃金等の好條件が備はつてゐるのに外ならないのである。

次に何故に人纖が斯くも時代の寵兒たり得たか其處には其の特性があり時代に對する適應性が無ければならぬ。即ち第一に絹、羊毛、絹紡、棉に比較して價額の低廉なることである。第二に自由に混紡可能にして適應性の大なることである。我國では純紡の方が現在多い樣であるが外國では殆んど混紡に用ひる樣である。羊毛、棉、絹、絹紡と混紡して獨特の新製品を得て技巧的應用價値を高める事が出來得るものである。更に未開の莫大小方面にも進出せんとしてゐるとの事である。又織物の新規研究に於ても價額低廉の關係上思ひ切つて研究材料に供する事が出來るし此の點でも有利である。商工省でも助成金を交付して人纖の凝毛性に付き鋭意研究中である。即ち口金より紡出する工程に於てフアイバーに細太を與へてウエーブさせる方法とかクロースにしてからウエーブを與へる方法とか色々の考察があるであらう。斯樣に國策的見地からも今後相當保護政策が現れるだらうから人纖工業の將來は尙進展向上が約束されてゐる。然らば人纖工業は將來無盡藏に發展し得るものかと言ふに增産に依る市價の低減、原料パルプ不足、主要藥品の値上等相當の心配もあるものと思はれる。伍堂商相は談話の形式で次の樣に言はれて居る。「人造纖維の國策としては原料たる人絹パルプの自給策が中心となつてゐるが今迄の樣な針葉樹のみでは不足であるから闊葉樹其の他のものを研究する事になつてゐる。例へば台灣のバガス（廣糖粕）、滿洲の葦、日本内地の柳、ポプラ等を商工省が新設する纖維工業研究所で試驗する筈である。人纖の消費方面も獨逸の樣に羊毛との混用を强制する事が必要だと思ふから羊毛、人纖の混用を法で强制し度い」

（三）、人纖の需給狀態並長所短所

人纖の生産高は一ヶ月推定三九〇万封度で其の消費分野は次の樣である。（日本紡織通信、單位万封度）

人纖生産高　三九〇
- 二三九　棉紡會社への供給
- 七〇　絹紡會社への供給
- 七〇　輸出
- 一〇　毛、麻、方面消費

次に其の長所を擧げれば次の通りである

1. 羊毛及棉花と異り雜物を含有せざること
2. 纖維の長さ及太さが均齊なること
3. 任意の纖維に紡出し得ること
4. 羊毛、棉、絹、麻等他の纖維と良く混合して特殊の絲を紡出し得ること
5. 人造絹絲に比し光澤溫和にして手觸よく保溫性に富み取扱容易であること
6. 染着力大なること

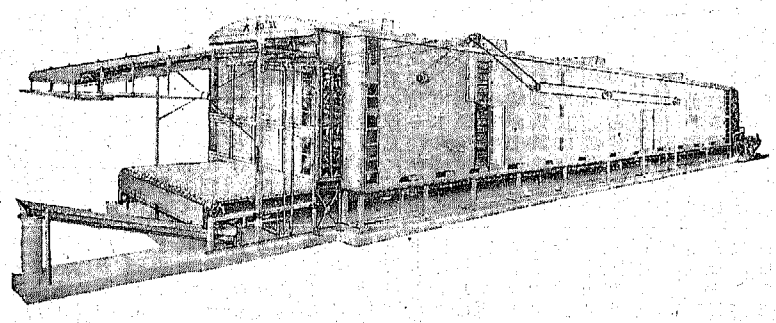
其の短所を擧げれば次の通りである

1. 强力弱く彈力性及柔軟性に乏しきこと
2. 耐久性に乏しきこと
3. 搦合性を缺くこと

以上で大体人纖の概念に就て述べたものであるが次に我々の最も關係ある生絲との消費分割を考研し併せて其の將來に對し愚見を述べて見たいと思ふ。

（四）、蠶絲業の現狀

一般纖維工業の躍進、軍需インフレ、米

現代乾繭機界ノ王座
大和式自動輸送乾繭機
二五九七年代表型
【各種型錄贈呈】

營業課目
特許大和式自動輸送乾燥機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥裝置
特許やまトホイロ
特許サンコー式濾過淨水裝置
特許サンコー式廢湯吸熱器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式トラップ
製作發賣元
株式會社
大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番

國の好況等の影響を受けて生絲も相當の價額を維持し吾々蠶絲業に關係する者焦眉を開きたりと雖も將來に對し樂觀を許せない事は勿論である。化學的パツクを有する人絹、人織があるからである。從來蠶絲業は無軌道なる發展を遂げ家庭工業の延長に過ぎなかつた爲に他の工業に比して非常に亂脈なものであつた。近年蠶絲業の非常時に震駭し初めて業態の統制强化に朝野を擧げて努力してゐる次第である。即ち近年製絲業法原蠶種國家管理法、蠶絲業組合法の改正、產繭處理統制法等相次いで制定施行され蠶絲業を一貫しての統制强化を計り且つ不合理的處理形態を合理的ならしめ取引の圓滑を圖らんとして居る。統制とは無制限なる自由競走を矯正して大乘的の考へより國家社會を秩序あるものにして我國蠶絲界も產業統制の下にあらゆる不合理を排して將に其の第一歩を踏出さんとしてゐるのである。長年蠶絲業界を不安に導く大缺點と謂はれてゐた極端なる絲價の低落も今般の絲價安定施設法の施行せらるゝに依り積極的に絲價を安定ならしめんとして居る。即ち法規を以て國內の繭、生絲（野蠶絲を除く）の生產消費の動態及上繭の生產費、生絲の製造並販賣費を調査し本法活用の羅針盤たらんとしてゐる。即ち此れを以て蠶絲業に對する一貫した統制强化の法規の制定を見たのであるが今後は此の運用と斯業に關係せるものゝ協力に待つ外はないのである。稍もすれば生絲の將來に對し危惧の念を抱く者多き時に當り鐘紡津田社長は次の樣に言はれて居る。「養蠶製絲は年と共に進歩すると謂ふも遲々として運ばず。近年製絲業は機械的操作に幾多の改善を加へたりとは謂へ本質的には微動だにしてゐない。元來製絲業の實体は製絲にあらずして天與の蠶繭を解き戻し繰返す丈けの單純操作の範圍を一歩も出でゐない。故に劃期的の進歩を促すを要す。現在は想ひも寄らぬ新生面が化學の洗禮に依り恰も大木が人絹に化けたる以上の變化を望み得ないと斷言する事は出來ぬ。即ち生絲の更生は

1. 化學の力に依り新生面を拓くこと
2. 生絲の新需要を開くこと
3. 繭の實相を注視して全幅の價値を開拓すること

の三點にある」と述べられ鐘紡が實際に製品化してゐる更生絹絲、シルクカーペツト、KBK絹石鹸に就て述べられて居る。又北大川口博士は蠶絲業の生きる方策として『生絲は人絹の第一の長所たる安價に對して出來得る限り接近に努めると共に生絲の長所たる品質を生かす事に於て兩者を引き離す事を目的とせなければならぬ。今後は益々優秀を誇るべき生絲の產出と同時に生絲生產費の最も低き下級生絲の生產とに生產分野を分ち新用途たる羊毛、絨氈、絹洋服、漁網、再生絹絲たらしむる必要あり』と述べられてゐる。思ふに兩者の言、蠶絲業更生の重大方策である。

（五）、人絹、人織の消費分野並生絲の自衛策

世界織維の消費數量より見るも生絲は極めて僅少なるもので前述の如く生絲の競走織維は人絹なる事は事實なるも人絹は將に人織として混紡に依り應用範圍を擴める事に於て棉、羊毛の分野に侵蝕しつゝあるものにして近時人織の顯著なる發展は明かに之を裏書してゐるものである。然らば化學の發達に依り人絹は今後益々改良され人織は他の高級織維との混紡に依り益々品質の向上に邁進する事は事實であるとは謂へ共コストの低廉が消費の一大生命である關係上何も苦んで少量の生絲を競走相手とする必要は無いのである。生絲には生絲の特性があり人絹人織にも各々其の特性がある筈だ。色々の意見もあるだらうが生絲の活路は生絲本來の特性を發揮伸張させる事に於て生絲の特性を活す製品に於て初めて其の消費が確立する譯だ。尙販路を米國一國に留むること無く完成品として積極的に未開の販路を求める事で針塚先生の力說される處である。即ち世界を市場として飛躍する時其の需要は決して悲觀する必要は無く却つて前途洋々たるものがあると考へる。政府當局並に日本中央蠶絲會の絹織物の宣傳と相待つて片倉、鐘紡、郡是等の大會社に於ては着々其の實行に乘出してゐる狀態である。塚越に設立せる郡是織維の工場長東原氏も現在世界各國の國情を視察して其の販路を探究中との事である。尙鐘紡にて行つてゐるサービス、ステーションの如きものを世界有數の地に設置し具体的に絹の宣傳に販路擴張及び製品の取次に當らしむる如きは効果ある方法と思はれる。前述の鐘紡津田社長の謂はれた如く繭生絲を原料とする優秀なる絹製品を作成し世界の市場に雄飛する事は最も必要なる機宜の問題である。尙國外輸出と相待つて國內消費の充實に万全を期するこそ織維自給自足の見地からも重大なる問題である。勿論人絹の重壓がある以上生絲生產費の低減を桑園、蠶種、養蠶、製絲の各部の合理化に依り圖り其の競走織維價額との間に一定の比率の保持に努むべきである。スリーキヤリヤーの出現に依り高格物とのプレミアム減少しイーブンネスはAA程度のものにて充分間に合ふ樣宣傳されしも近時スペツシヤルとのプレミアムを相當生ぜる現象より思考すればスリーキアリヤーを以てしてもスペシヤル物はより良き靴下製品を得益々需要される事を裏書きするものである。米國に於ける絹業界を見るに絲價昂騰の結果廣幅物方面は概して人絹に侵略される傾向なるも全國靴下業聯合會の婦人フルフアション需給統計に依れば一九三六年中の賣行は前年に比して九、一%の增加を示せるものにて甚だ明朗である。絹性來の特徵を發揮せる製品は獨自の立場を開拓して行ける事を立證するものである。世界文化の發展につれて人類の趣味慾望の向上は日に月に增大するものにて未販路國にして日本の絹に對する慾望を有するもの多大なるは外國旅行者に依つて語られる處である。抑々我國紡績工業の內にて原料を自國に求むるものは絹工業が最も主なるものにして農民の汗の結晶であり農村經濟に主要なる役割を演ずるものである。競走織維たる人絹、人織は飛躍的發展を示し其の生絲に對する重壓は寔に脅威的にして現在生絲が悲觀を要せざる狀態にあるとは申せ恒久的自衞策を樹立し化學的、物理的研究に依り未開を開拓するは勿論積極的に生絲本來の特質を伸張させ販路を擴張して絹獨特の需要の大道を拓き世界の市場に雄飛すべきであると考へるものである。

（長良河畔にて　K、M生）

南船北馬錄

空來山人

一、早春の旅

善く言へば世話好き、惡るく言へば物好きと言へる貧乏性に生れついたが因果で常日頃隨分忙しく暮して居る筆者にも今年の春の樣な「べら棒」な忙しさは近來一寸見當らないことだ。

一月の末から二月へかけて議會傍聽希望者がひつきりなしに上京して毎日の樣に兩院の事務局と電話して「議長紹介」の傍聽券を貰ひ續け、やつとひときりになつたらしいので二月十九日の早曉久方振に紅塵の都門を出で東海より四國中國一巡の旅へ出た。此旅は自身「江戸のほこり」を吐き出すと同時に新たに東京の大學專門學校を卒業する若人の中で自分が少々世話してゐた連中の就職口を膝詰談判で決定すると云ふ洵に蟲の良い一石二鳥をねらつたものである。

元より行雲流水の旅、いづこに赴きいづこに止るも天外の野人には何の差障りもない。靜岡で中里總務部長や鹽入蠶絲課長、岸勝彌君等に敬意を表し袋井で戸倉八郎君を訪ねたが取込中で會へず、豊橋の繭檢定所長や蠶業取締支所長等の舊知と快談し浦郡に工藤一二三君等と夜を徹して歡談快語した。岡崎の日龍蠶種株式會社では若い鈴木君の精進振を歡賞し安城では清水洌校長の蠶前にぬかづき大石卓爾君の進退問題に觸れ半田へ廻りて農學校を視察し名古屋に出でゝ愛知縣廳に警察部長、經濟部長等の舊知と談笑し蠶絲課に芝君を訪れたが出張中で會へなかつた。

二月廿二日の夕方奥村好一君の東道を煩はして有名な古戰場小牧山に登りて暫し家康の覇業を偲び久方振に史興を滿喫して身の旅中にあるを忘れ翌廿三日早朝奥村君宅を辭去して新築開業した計りの名古屋驛を發して三重縣龜山町に白澤、朝長の諸君と語り次で津の高農蠶試繭檢定所等を歷訪し縣廳に町村警察部長の金ピカ振を見たる後關西製絲會社蠶種部の御大橋本武光君の厚志に甘へて夕食を快喫し翌日早發松阪市に立寄り神都宇治山田に到り先づ外宮內宮を拜し蠶取支所に小野修二君を訪問し五十鈴社を視察して後一路準急に搭じて奈良縣八木町に到り本間久君に迎へられて同君宅に投ず。

二月廿五日本間君同道繭檢定所訪問後櫻井町の龜山製絲大和工場に立寄り國寺の當麻寺に參詣し一路和歌山に到りたるも神崎君出張不在の爲め止むなく和歌浦へ延し曾遊の望海樓に投じ、翌日御坊片倉に田口榮治君を訪ね同君の厚意に任せて南紀の白濱溫泉に一夜凝脂を洗ひ引返して和歌浦より阿攝航路の山水丸に搭じ雨の紀淡海峽を眺め乍ら薄暮德島縣小松島へ上陸して德島に一泊、翌日鳴島池田を經て高知縣に入り後兎に味澤泰造君の精進振に喫驚し更に野市の蠶業試驗場を視察し高知市に入りて川淵市長に敬意を表し縣廳に小林知事、田中地方課長を訪ね經濟課の名星中澤馨君の若あゆの樣な潑剌たる活躍振を見、同君の厚意にて高知城趾に立ちて土佐の山水を下瞰し有名なる五台山上に杖を曳いて浦戸灣頭の風光を滿喫し今年初めて爛漫たる櫻花を見た。土州繭絲の伊藤柳作君も案外元氣だつた。佐川町の青山文庫はさすがに明治維新の生字引たる青山田中光顯伯の心血を注いだものだけの事あつて志士の遺蠶は大したものであつた。

佐川町から愛媛縣の松山市へ出る三十餘里の山道は前遊の頃とは違つて堂々たる省營バスが通つて惠まれた天候に櫻、桃、山吹、たんぽゝ、すみれ、菜の花、れんげ草の花盛りであつた。

愛媛縣廳蠶絲課の明星宮崎清治君の元氣振は頼母しかつた。何年振かに道後の溫泉へも浸つた。松山城趾へも登り設備と內容とで天下に冠たる愛媛縣繭檢定所も視察した。西條の波多野兄、新居濱の花岡作彌兄も皆元氣一杯だ。花岡兄とは久方振に故山信州を語つたが仲々つきない。

餘りに豫定より後れたので香川縣は素通りにして高松より內海を越へて宇野へ上陸し直ちに岡山に到り更に伯備線に轉じて新見に到り津山線に入りて落合久世津山を歷訪した。津山では杉野壽一君の東道を煩はして兒島高德の遺趾や豪壯な津山城趾を遊遙しその夕べ藤原卓之、杉野壽一、甲田勝衞、中澤利三郎の諸君と水入らずに語り明かした。

三月九日の朝岡山縣勝間田農林學校に中島靜太郎君を訪ねて十八年振に快語し鐘紡工場に神津輝人君を訪ねてその剃刀の切れ味を拜見した。夕景兵庫縣に入り縣立佐用農蠶學校に林新一君を訪ね新進校長としての施設振を視察し二千同窓の爲め万丈の氣焰を吐くに足るを知つた。

神戸では鐘紡の唐澤、鹽見兩君に敬意を表した丈けで縣廳市役所神榮生絲等を歷訪し大阪京都へ立寄り十一日暴風雨裡の大津へ下車、岡本警察部長や重田蠶絲課長に敬意を表し重田老のヒツトラー振りを快喫した。重田課長と意氣大いに投じ琵琶湖畔に夜を徹して快談したのは此旅行中の思出の一であつた。

十二日の朝飛雪粉々として舞ふ滋賀の都を去つて一路岐阜に至り縣廳繭檢定所を訪ねたる後那加村の蠶業試驗場に高橋場長、北澤周一、宮川、三輪の諸君と快談したる後夕景水入らずの會食をなし深夜岐阜に歸りて一泊、翌朝古井多治見を經て大井町に着し蠶業試驗場に森原孫三君と語りたる後一路木曾川をさかのぼり精進振に喫驚し更に野市の蠶業試驗場を視察し高知市に入りて川淵市長に敬意を後相伴ふて淺間溫泉に一浴旅塵を洗ふ。

十四日松本發長野行車中圖らずも上田の浦生後興、北島正生其他の諸君に會ひ篠之井より宮澤佐源次老と同車して久々に屋代の草屋へ歸臥、翌十五日上田へ行き校長室に針塚先生及倉澤美德、山本岩三郎兩君と會語し夕景松尾城頭を去つて深夜東京上野忍丘畔の自宅へ歸つた。此行日を閲する事二十七、行程凡そ二千五百キロ、面接者凡そ二百名、その內同窓が七十名であつた。

上田便り

縣聯合青年團大會　長野縣聯合青年團第一回大會は四月三日午前十時から上田市公會堂に縣下各青年團代表一千餘名參集の下に開催、各郡市聯青團旗、縣聯青團旗、聖恩奉戴國民精神作興旗の入場、宮城遙拜等に次いで顧問近藤知事の訓示香坂大日本聯青理事長、成澤市長、縣聯女青理事長、物部學務部長諸氏の祝辭ありて閉式、中食後會議で「青年團經營の重點を何處に置くべきか」「青年團產業部の活動狀況を承りたし」の協議及び宣言香坂理事長の講話ありて各團旗退場して萬歲三唱、閉會後上田女青團員の餘興を見て散會、尙地元上田聯青は來賓、聯青幹部を同夜香青軒に招待、晩餐會を開いた。

陸軍上田飛行場新施設　陸軍上田飛行場の三万坪擴張工事は全く完成陸軍へ引繼を終了したが更に三千坪を擴張し校舍寄宿舍を建設し六月にはパイロット養成に乘出す模樣で、四月三日所澤飛行學校幹事井下少將、操縱課長近藤中佐以下六氏が別所溫泉に滯在現狀を視察し種々計畫を廻らしてゐるが早くも上田市宛寢台五十台が到着し囑託醫師柳澤文三郎氏が内定した模樣である。又新に六月一日から門衞、地上勤務の專任雇員若干名を配して飛行機着陸に於ける手傳ひは勿論、晝夜の警備に任ずるべく四月四日市役所で市係員、軍人分會長立會の下に所澤近藤中佐によつて採用試驗を行つた。

長野鐵道事務所管轄區變更　長野運輸保線兩事務所は四月八日から所轄區間一部變更された。即ち從來軽井澤迄の東鐵區間が更に沓掛迄延長され淺間山麓の高原地帶を失ふ代りに北陸線市振驛以東の十驛、大糸北線の小滝、根知、頸城大野等の十三驛を新たに管内に加へて「山の運輸事務所」と云はれたのが北陸線谷濱鄕津の海岸を加へて鮮魚の輸送、海水浴の宣傳に新たに一轉機を劃する事になつたと共に一方北陸市振、親不知附近の雪の難所を抱へて一層の責任を附與された譯である。

上田高女の同窓會館竣工　上田高等女學校の同窓會員約四千人の寄附金に依り母校庭に工費一万三千四百八十圓で昨年九月上旬より建築工事中の處完成し四月九日盛大なる落成式を行つた。同窓館は建坪百二坪、間口十五間、奥行八間、二階建で宏壯優雅な日本樣式建築である。二階は講堂とし階下は裁縫室、娯樂室、作法室、圖案室其他有ゆる設備が整つてゐる。

商工會議所正副會頭再選　上田商工會議所の選擧後の初總會は四月九日午後二時より開催直ちに正副會頭の選擧に入り會頭に伊藤傳兵衞、副會頭に笠原善吉氏再選され引續いて常議員七名、顧問六名を選擧、議員の各部等を決定して閉會した。

春繭初取引豫想十圓台　上田繭絲商組合第十八回定期總會は四月十一日市公會堂に開催され、その席上春繭初取引豫想投票を行つたが其の平均値は左の通りである。（括弧内昨年豫想値）

沼津　高値八圓八十八錢（六圓八十八錢）
　　安値四圓三十錢（四圓二十一錢）
　　買調六圓十二錢七（五圓二十八錢）
上田　高値十圓十二錢五（七圓八十錢）
　　安値五圓廿六錢（三圓九十五錢）
　　買調六圓廿二錢五（五圓三十七錢）

救護所報恩寮建設　四月十六日の市會協議會に於て十二年度追加豫算として數年來懸案となつてゐた救護所「報恩寮」を北校西方の屠場跡敷地四百四十二坪へ建設を決定し本年秋迄に竣工の豫定で地均着工、建設費は國庫五、、縣費二割五分の補助を受け當市八千圓の豫算であつたのが物價騰貴の爲め一万二千三百八十圓建坪計百卅五坪木造スレート葺三棟、附屬建物三棟で内務は事務室、醫務室、小使室、宿直室、浴室、消毒室、作業室、禮拜室等を設計書記一名外囑託醫、看護婦兼使丁、炊事婦等を充て身寄り無き落伍者二十人以上の救助收容設備となす。現在は上縣佛教會の手に依つて新田慈光園が收容事業をなしつゝある。

武德殿落成式　皇太子殿下御降誕記念として計畫した武德殿は上田市出身の在京成功者手塚守二氏の一万圓篤志寄附に依り上田招魂社東側に建築中の所竣工したので快晴の四月十八日午前十時より落成式を擧行したが寄附者手塚氏を始め近藤知事等三百餘名出席し引續き遷座祭執行後正午南庭で直會を開いた。開館式武道大會は後日總裁梨本宮殿下の台臨を仰いで盛大に擧行する筈である。因に松平神社前の演武場は武德殿東北部に移轉『武者溜教範士控席』に改める事に決定した。

鐘紡丸子工場開場式　鐘紡丸子工場開場祝賀會は花日和に惠まれた四月十八日上田社長の來場を得て擧行、午前七時より國旗揭揚式、同九時より女子寄宿舍作品勞作展覽會並に鐘紡製品展覽會、十一時より近藤知事外三百餘名の名士、七百餘名の父兄が開場式を執行、十二時より園遊會、二時より一般從業員慰安會が行はれ盛會であつた。

小縣蠶業纖維加工室新設　小縣蠶業學校では纖維加工室が漸く完成し紡毛機十台、纖維ホームスパン一台、普通手織機整經機一台、絹絲撚糸機三台、座繰機十台が据付けられ山崎教諭指導の下に四月十九日より作業が開始されたが纖維加工は生徒の選擇實習として指導し尙今秋から約二十名の農村女子を募集し農村副業の指導に本格的に乘出す計畫で一般から期待されてゐる。

北信の花便り　四月十九日現在北信地方花便りは上田城趾は滿開、小諸懷古園は二分咲きで滿開は廿二三日頃、更級郡八幡村大雲寺及び稻荷山町治田公園は七分咲、長野市城山公園四分咲、滿開は廿二日頃、別所溫泉二分咲、上田市外長池公園は滿開である。

上田の觀光祭　上田の觀光祭は四月十八日から開始、十八日は武德殿竣工式、十九日は花見踊、上田公園にて午後七時より麗人踊手特別出演、コロンビヤ、サウンド、トラック協賛出演、二十日は觀光祭、上田公園にて午後七時より、廿二日は上田招魂祭典、奉納武術試合開催、廿三日は松平神社祭典、餘興藝妓所作事手踊等催された。

東信中等校野球リーグ戰　恒例の東信中等學校リーグ戰は今年は野澤中學が野球部を廢止したので岩村田中學、小諸商業、丸子農商、上田中學の四校となり、四月廿六日小諸商業に於て協議の結果一回戰は各校へ遠征する事二回戰は上田市營球場に於て大會式試合を行ふ事に定めの如く日割を決定した。

第一回戰（日曜日午後一時）
△五月九日丸農—小商（小商校庭）同上
中—岩中（市營球場）△五月十六日小商—岩中（岩中校庭）同丸農—上中（丸農校庭）△五月廿三日上中—小商（市營球場）同丸農—岩中（丸農校庭）

第二回戰
△六月十三日、雨天の時は廿七日）市營球場、午前九時より上中—小商、正午より丸農—岩中、午後三時より優勝戰

桑苗騰貴　上小地方養蠶家は繭價高調に一昨年秋以來の桑園改植擴張等再興に物凄い馬力を掛けてゐるが桑園の騰貴に曾ての養蠶好況時代に戻る許りの高値を示し目下群馬茨城方面から仲買商が入込んでゐるが同地方も品不足を呼び全國的桑苗不足時代を現出し四月廿一日の上田相場は一之瀨四圓、改良鼠三圓四五十錢鼠返二圓を唱へてゐる。

蠶種業組合小縣支部催青開始　暖氣溫の爲めに上小地方の蠶種家は早くも蠶種業組合小縣支部へ續々催青を申込み支部では五月二日掃二百八十枚、千葉方面へ販出されるものを四月廿一日電熱催青室で開始したが絲價好調を反映し本年の蠶種販賣價格は濱絲九百圓を標準に支母体十八錢、日母体十七錢、歐母体十五錢に決定した。

上小地方掃立五%增　上小一万四千の養蠶製絲家は絲價好調を見越し春繭白一貫匁平均六圓三十錢見當の强氣豫想で繭景氣再來を期待してゐる。溫暖續きで桑の發育は順調に進み早場は五月十日、大並は同廿五日頃一齊に掃立て繭價高しの呼び聲で前年より五分の增掃と蠶業試驗場上田支場所上田支場へ申込んだ原蠶種は四月十七日迄に廿四万蛾を突破し前年廿五日現在十七万蛾に比し注目すべき激增振りを示してゐる。本年蠶種界の寵兒は支一〇七、日一一一で共に申込總量の三割を占め支一六、歐一六の各一割之に次ぎ往年三座を占めてゐた日一一〇　支一〇六、平和安泰等の原蠶種は全く影をひそめた。上田支場の配給品種は一化狀六品種の三割二分、二化性八品種六割八分で今春から徹底的に奬勵飼育される日一一一×支一〇七の流行品種が大歡迎されてゐる。又支場では廿五日催青に着手したが昨年より五日早く、掃立は五月一日に決定、諸般の準備を進めてゐる。

縣下の掃立一割增か　縣下養蠶家は愈々飼育期もせまつたので準備に着手したが縣下の早手地方西筑摩郡山口村、下伊那郡安岡村は五月三日頃掃立てるが大體二十日頃が最盛期である。桑園も前年の如く雪害等はないので桑葉の發育も極めて良好で從つて掃立數量も前年の六百卅六万瓦の一割增加は確實で降霜等特別の支障なき限り春蠶期より早くも好景氣等を期待されてゐる。

他縣にボイコットされ蠶種家大打擊　縣下蠶種業者の製造しつゝある蠶種約五千万瓦の内三千三百万瓦は縣内に販賣し一千七百万瓦は縣下に移出してゐるが最近蠶繭處理統制法がたゝつて群馬、埼玉茨城、千葉等の諸縣に於て何れも蠶種の鎖縣主義を取りつゝあり一方本縣の製絲業者の經營する他府縣の工場には要する爲に設立せんとする特約組合の如きもその縣内製の蠶品種を掃立てなければ特約組合の設立を容易に認可しないと云ふ極端な狀態にあるので今回縣製絲業組合と握手して本縣蠶種の優良品を本縣各製絲工場に提供する樣に連絡協議する一方縣内の組合製絲への對抗策に就ても共同防衞陣を布くと共に行詰りつゝある本縣蠶種製造業の頽勢挽回に乘出すことになつた。

眞田草津直通バス運轉　上信省營バスは從來眞田草津間の直通運轉が無かつた爲め各方面に不便を與へてゐたが愈々五月一日より新たに眞田發午前十一時三十分、午後三時十六分及び草津發午前十時四十五分と午後二時四十九分の二本の直通を加へる事になり更に群馬縣嬬戀村方面の交通聯絡の圓滑を計る爲め從來の眞田發長野原直通最終三時十六分が更に四時三十分、五時卅四分と增發された。右省營バス增發運轉に依り上田溫電の電車上田驛發着時間も左の如く變更された。

△午後十二時三十分發を同廿四分發に
△午後三時三十分發を同卅四分に
△午後十二時五十分着を同四十五分着に
△午後四時十五分着を同二十分着に

北上州の產物を省營トラックで上田へ出荷　北上州に於て生產される白菜、甘藍、馬鈴薯等は莫大に上るが從來上越線溫川驛に集荷された爲め關西方面への移出は不便であつたが今回眞田、溫川間吾妻線眞營バス道路に右期間中の五月一日から二台の專用トラックを運轉し出荷最盛期には十台のトラックを用ひて上田へ大量輸送する事となつた。

草鐵の新ハイク計畫　草津鐵道では新緣季節割引乘車券を左記に依り來る五月八日より六月末日迄發賣する事となつたがその内上田驛關係左の如し。（發賣驛は東京附近主要驛）

一、淺間山麓廻り（草鐵、省バス、溫電）
　發驛—輕井澤、輕井澤—上州三原、上州三原—眞田、眞田—上田、上田—發驛。

母校ニユース

岡教授令孃御結婚　紡織科長岡教授は長女綾子孃に今回山名享四郎氏を養子に迎へられ四月三日市内柳町大神宮に於て結婚式を擧げられ式後綠町うな藤に於て披露の宴を張られたが新郎は本校絹絲紡績科第一一回の出身現在横濱生絲檢査所に勤務せられ新夫人は上田高女卒業後上田實科高女專攻科卒業の才媛である。

纖維工業學會總會に小松氏出席　四月四日午後三時より東京市芝區新橋二丁目八番地藏前工業會館に於て纖維工業學會總會開催され終了後同所に於て講演會があり本校よりは紡織科小松忠一郎氏が出席した。

纖維懇談會に細川氏出席　四月九日大阪帝國大學理學部に開催されたる纖維懇談會に母校よりは蠶絲化學教室細川豊氏が出席した。

農學大會　農學大會は四月十日には東京市赤坂三會堂に於て總會、十一日は各部會が開催された。部會の内蠶絲學會は蠶絲會館に開催され母校よりは井上柳梧金子英雄、山口定次郎、窪田潤、鷹野誠一、宮坂收、茅野功、町田博の諸氏が出席した。母校及千曲會員の講演題目及講演者は左の如くである。

一、生絲の比重及び太さに就て　窪田　潤

新任の志賀助教授（右）と蠶絲學賞を得た金子教授（左）

一、生絲の光澤に就て　窪田　潤
一、絹フイブロイン成分硫酸濃度の粘性　金子　英雄
一、健康なる蠶蛹蠶蛾の細菌に就て　勝又　藤夫
一、家蠶に於ける伴性完全致死因子の利用に就て　坂田　武

更に部會の内應用動物學會は東京帝大農學部に於て開催され本校より金澤勇氏が出席された。同じく部會の内植物病理學會も東京帝大農學部に於て開催され本校より倉澤恒夫氏出席され次の講演を行つた。

一、桑のヴアイラス病に就て　倉澤　恒夫

金子教授蠶絲學賞を受く　四月十一日東京市麴町區有樂町蠶絲會館に開催されたる蠶絲學會總會に於て本校教授理學博士金子英雄氏は名譽ある第六回蠶絲學賞を受けられ引續き其の席上に於て受賞者として『家蠶繭セリシンの膠質化學的研究』と題して講演された。

養蠶科副手更迭　養蠶科病理部副手平尾孝平氏（蠶一九）は小縣郡東部實科中等學校へ、原蠶部副手西川晋氏（蠶二三）は石川縣蠶業試驗場へそれ〴〵榮轉せられ新に本年度卒業生の兒玉新一（病理部）、鈴木俊夫（原蠶部）、武井仙太郎（圃場部）の三氏が副手に任命された。

小木曾眞佐雄氏新任　本年養蠶科卒業の小木曾眞佐雄氏は蠶に退職された坂口育三氏の後任として四月十三日附蠶絲化學第一研究室に副手として勤務せらるゝ事となつた。

宣誓式及入學式　新入生の宣誓式は四月十二日午前十時より勤務課長生徒主事各科長出席し先づ第八教室に於て校長代理として井上教授より訓辭、新入生代表金子雄君（絲一）の宣誓文朗讀、次いで會議室に於て宣誓簿に署名を行ひ正午終了した。入學式は十三日午前八時より講堂に於て行ひ校長代理井上教授の訓辭、在校生總代若林康弘君（蠶三）の歡迎の辭、新入生總代金子雄君（絲一）の謝辭があり終つて廣川助教授の退職挨拶があつた。尙廿二日零時十分より專科生九名の署名宣誓式があつた。因に確定せる新入學者氏名は五面別記の通りである。

小山書記逝去さる　會計課勤務書記小山滋氏は兼ねて病氣精養中の處養生不相叶四月十二日逝去された。行年四十三才。誠に哀悼に堪へない。告別式は十五日午後二時より市内常入の自宅に於て行はれ職員多數燒香した。御遺族は未亡人に遺兒男一人女三人、然も長男毅雄君は十七才中學在學中、末子は二才と云ふ御氣の毒な狀態にある。同氏は小縣郡浦里村の出身大正十一年十月本校に奉職され十五年三月雇として會計課に勤務、昭和十年五月書記に任ぜられ現在に至つたものである。

廣川助教授退職せらる　生徒主事を勤められ劍道及び体育を擔當された助教授、廣川正治氏は今回東京文理科大學へ入學する爲め四月八日附を以つて退職され十三日入學式後袂別の辭を述べられ同日午後二時廿九分上田驛發上り列車にて東京に出發され職員學生多數見送つた。同氏の勤續年限は滿三ケ年である。

針塚校長勳一等に叙勳せらる　針塚校長は多年教育界に貢獻せられた御功績に依り四月十四日宮中鳳凰の間に召され總理大臣、宮内大臣、賞勳局總裁侍立の下に勳一等瑞寶章を　天皇陛下より親授された。先生の御喜びもさる事乍ら我々母校及び千曲會にとつても限り無き喜びであらねばならぬ。

田上忠義氏新任　先般九州帝大入學の爲め退職せられたる蠶絲化學第五研究室副手松浦彰義氏の後任として田上忠義氏（絲二〇）が四月十四日附新任された。同氏は本校卒業後横濱市中區本町日東製絲株式會社、都城市北諸縣郡是製絲株式會社に勤務され本年三月退職せられたものである。

萱野恒氏の御結婚　母校製絲科に約一年間勤務の萱野恒氏（絲二〇）は此度小諸町大池家に入婿百助氏二女信子孃と四月十六日目出度華燭の典を擧げられた。新婦は小諸高女卒業後横濱フェーリス女學校專攻科出身の才媛である。同氏は今後家に在つて御尊父を援助され專ら製絲業の經營に當られる筈である。同氏の御奮闘と御兩人の御多幸を祈る次第である。因に媒妁は林教授御夫妻である。

修巳寮生の太郎山登山　修巳寮生徒は四月十七日の本校創立記念日の休日を利用し午前九時出發太郎山に登山、正午頂上にて記念撮影をなし午後三時一同元氣旺盛にて歸校した。

正副総代決定　第一學期の正副總代は四月十九日左の如く任命された。

正　總　代　蠶三　若林　康弘
副　總　代　蠶二　長末　方夫
蠶一　村澤　巧
絲三　吉川　啓人
絲二　南木　嘉一
絲一　金子　肇
紡三　柳澤　柳二
紡二　飯田　武門
紡一　三宅　太
教二　中村　泰子
教一　小林トミ子
蠶三　西野　久
絲二　阿部　豊
絲一　山岸琢治郎
紡三　御子柴希太郎
紡二　平林　孝方
紡一　吉田　耕三
教二　田路　治男
教一　中澤　澄子
蠶二　谷澤　衛
蠶一　片山　幸

寄宿舍寮長決定　四月十九日午後四時より校長室に於て寄宿舍寮長任命式を行ひ左の如く任命した。

修巳寮々長　蠶二　谷澤　衛
東寮々長　絲三　尾崎　敎
高岳寮々長　蠶三　生天目久平

修巳寮新入生歡迎會　四月十九日午後五時より修巳寮に於て同寮新入生歡迎會を開催した。職員の出席者は學生課の外校長　井上、岡、佐藤（春）、窪田の諸先生にて盛會裡に午後七時終了した。更に四月廿四日全員新鹿澤温泉に新入生歡迎旅行を行ひ一泊廿五日歸舍した。

研究生二名　四月廿一日附を以て製絲科に左記二名の研究生の入學を許可した

正村　德郎（岐阜）　鹽原　彦男（長野）

校長勳一等拜受報告會　針塚校長は今回勳一等を拜受せられたるに付き四月廿一日午後四時より千曲會館に於て全職員を招待して茶話會を開き御親授の模樣を報告せらるゝと共に謝辭を述べられ之に對し井上教授が全職員を代表し祝辭を言上した。更に廿二日午前十二時より第四教室に於て校長より學生傭人に對し昨日と同樣の報告があつた。

關かほる、磯村敏子兩孃新任　本年三月教婦養成科卒業の關かほる、磯村敏子兩孃は製絲科教婦として母校に勤務される事となつた。

紡織科新入生歡迎會　四月廿二日午後四時より千曲會館樓上に於て紡織科新入生歡迎會を開催した。職員の出席者は岡野口、香山、小松、湯原、飯田、山寺の七先生で飯田（武）君の開辭にて開始、菓子を喰ひ乍ら自已紹介から蔭藝に移り吉田君の閉辭、校歌合唱、岡先生の發聲にて紡織科萬歳を三唱し六時頃散會した。

招魂社例祭代表參拜　四月廿二日の招魂社例祭に對し本校より蠶一、蠶二、絲二が全校を代表し參拜した。

身体檢査施行　全校職員傭人生徒の身体檢査を左記日割に於て午後行つた。

四月廿一日　蠶三、蠶二、紡二、紡三
四月廿三日　職員、傭人、紡一、絲二
四月廿四日　蠶一、絲一、教一、教二

本年度養蠶實習計畫　四月二十二日養蠶科實習會議を開催、今年度の養蠶實習について種々打合せを行つた結果次の如く決定した。

實習豫定

科目		
蠶三	蠶二	蠶一　絲一
傭青着手	五月一日	五月一日
蠶室蠶具洗滌	四日	四日　八月一日
蠶室整理障子張	五日	五日　一日
消毒	十一日	十一日　一日
掃立準備	十三日	十三日　一日
掃立	十四日	十四日　一日

志賀助教授新任　廣川助教授の後任として助教授志賀章雄氏が四月廿六日附新任された。同氏は山形縣出身、山形師範を經て東京高等師範學校体育科丙組を本年卒業せられたる當年二十八才の新進氣鋭の士である。

養蠶科職員會別所温泉行き　養蠶科職員會では四月二十七日の休日を利用して別所温泉に一日の清遊を試みた。散り殘つた櫻花に春の名殘りを惜み、午後九時盛會裡に散會した。

校長勳一等叙勳祝賀式　四月廿九日天長節拜賀式後午前十時より道場に於て針塚校長勳一等叙勳祝賀式あり職員傭人學生全員參集、井上教授全校を代表し祝辭を言上し校長より謝辭あり井上教授發聲にて萬歳三唱して散會した。

宮本英雄氏新任　四月十二日逝去せられたる會計課勤務書記小山滋氏の後任として四月三十日附宮本英雄氏が雇員として勤務せらるゝ事となつた。同氏は更級郡鹽崎村の出身、當年四十二才、上田市書記、上田中學書記を歴任せられたる會計事務熟達の士である。

談話會例會　談話會の第一學期は養蠶科宮坂收氏が幹事として世話せられる事となつた。その第一談話會は四月廿三日午後四時より特別教室で開催されたが談話題目及談話者左の如し。

一、農學大會土產話　倉澤　恒夫
一、農學大會土產話　金澤　勇

山口助教授内地留守　養蠶科助教授山口定次郎氏は今回文部省内地研究員を命ぜられ蠶卵の生理に關する研究の爲め六ケ月間東京市へ出張せらるゝ事となり四月三十日出發されたが東京帝大農學部動物學教室に於て研究せらるゝとの事である。

新入學者氏名

（五十音順○印は無試驗）

養蠶科（三十三名）

秋山幸夫　長野
○伊藤嘉三郎　長野
○小川泰三　長野
加子三郎　長野
河田泰　長野
北村元三郎　長野
小林滿　長野
佐藤三夫　長野
○關谷英一　長野
○田中光雄　長野
西野久　長野
福田三郎　長野
前田三郎　長野
○宮澤久雄　長野
柳澤益男　長野
相澤清正　長野
柿澤和英　長野
小幡昇義　長野
伊藤正　長野
若林亮祐　長野
山口享　長野
武井雄　長野
松野正　長野
中村廣　長野
土居樹　長野
田中芳　長野
竹內信男　長野
五十嵐重郎　長野
高橋一郎　長野
笹川嘉隆　長野
小林鎭洪　長野
姜朝鮮　長野
川上今朝雄　長野
金子肇　長野
相田文雄　長野
岡田廣太郎　長野

製絲科（三十二名）

長野輝男
海野茂平
川瀨巳年生
小田兒宏
泰鹿
竹下清
西澤良
濱村長二
松田眞
村榮
巧
神奈川郡
廣島
長野
靜岡
宮崎
山口
長野
山梨
長野
愛知
栃木
長野
福島
長野
岡山
城
茨城
福岡
分
河野英記
稅田廣喜
諏訪幾久男
長野
長野
岡崎
鹿兒島
群馬
長野
狩野鮮
長野
長野
長野

叙任辭令

母校之部

四月八日　助教授　廣川正治

依願免本官　副手　西川晋

願ニ依リ副手ヲ免ス　四月十日　副手　平尾孝平

願ニ依リ副手ヲ免ス　四月十三日

養蠶科　兒玉新一

仝　武井仙太郎

仝　鈴木俊夫

蠶絲化學教室　小木曾眞佐雄

副手ヲ命ス各頭書勤務ヲ命ス　四月十四日

從三位勳二等　針塚長太郎

敍勳一等授瑞寶章　田上忠義

副手ヲ命ス蠶絲化學實驗室勤務ヲ命ス　四月十五日　副手　萱野恒

願ニ依リ副手ヲ免ス　四月二十一日　志賀章雄

任上田蠶絲專門學校助教授給五級俸　磯村敏子

製絲教婦ヲ命ス　四月二十三日　關かほる

製絲教婦養成科勤務ヲ命ス　四月二十四日　股茅童

副手ヲ命ス養蠶科勤務ヲ命ス　四月三十日　宮本英雄

雇ヲ命ス會計課勤務ヲ命ス　秋宗培

奮職員之部

從五位勳五等　水井壽一郎

敍勳四等授瑞寶章

卒業生之部

地方農林技師　西孝重

宮城縣農林技師ニ補ス（三月二十六日）

公立實業學校教諭　鍵谷傳

公立實業學校長兼教諭ニ任ス

高等官四等ヲ以テ待遇セラル

九級俸下賜

岐阜縣益田農林學校長兼教諭ニ補ス

同

六級俸當分千七百拾圓下賜　片岡清治郎

四級俸下賜　同

願ニ依リ本職ヲ免ス　公立實業學校長　佐谷戸健次郎

陞シテ高等官三等ヲ以テ待遇セラル

公立實業學校教諭　小島五郎

七級俸當分年俸千五百九拾圓下賜（三月三十一日）　大石卓爾

敍從五位　公立實業學校教諭　野澤泰治

愛知縣西尾蠶絲學校教諭ニ補ス（四月一日）

地方農林技師　栗原章

佐賀縣農林技師ニ補ス（四月七日）

十一級俸下賜

敍從五位　正六位　佐谷戸健次郎

公立實業學校教諭　天田晉三郎

年功加俸年額百九拾貳圓下賜（四月九日）

公立實業學校教諭　北村一郎

願ニ依リ本職ヲ免ス（四月十九日）

朝鮮總督府專賣局事務官　朝倉昇

陞敍高等官三等（四月二十日）

敍從五位　廣島縣農林技手　黑岩覺

地方農林技師ニ任ス（四月廿一日）

高等官七等ヲ以テ待遇セラル

公立實業學校教諭　田口富五郎

群馬縣立蠶多農林學校教諭ニ補ス（四月廿四日）

同

長野縣上高井蠶業學校教諭ニ補ス　佐藤尙雄

纖維懇談會に出席して

本年度の纖維懇談會は四月九日阪大理學部に於て開催されました。會場は三階の階段教室で集まる者は殆んど學士ばかり凡そ四十人餘でありまして殊に講演者は學界の權位者揃ひで從つて其の發表にも非常に熱と興味がありました。然し聞いて居る時には成程とうなづかれた事も後で原稿を整理し乍ら考へて見ると實に難かしい事が多かつた樣に思はれました。

當日は午前九時開會阪大理學部長眞島利行氏（厚木勝基氏缺席の爲め）の挨拶に始まり續いて講演に移り、先づ纖維素の親溶媒性研究の一方法と云ふ題で東京工業大學の金丸競氏が年來のジータ電位の研究を一括發表されました。氏は之のジータ電位が如何によく纖維素の親溶媒性を表示する武器であるか、又纖維素の親溶媒性の問題が工業上如何に意義深きものであるかを發表されたのであります。續いて聽講者から二、三質問がありました。

次に講演豫定者櫻田一郎氏が缺席されたので之に代つて倉敷絹織の友成九十九氏が演臺に上り纖維素の溶解狀態に就て題して其の原稿を朗讀されました。種々の纖維素エステルを作つて溶媒に溶解して見るに全く同一條件の下に行つても其溶解狀態は全く一致した結果が得られないのであつて之は恐らく纖維素のマ、子即ち極く僅か乍ら化學的變化を起した纖維素が存在しその爲であらうと云ふ樣な事を云つて居られました。やはり二、三質問がありまして午前は之で終り、晝食は參會者一同大ビルで懇談の中にすましました。午後は一時半から直ちに名古屋高商小原龜太郎氏の人絹パルプの顯微鏡的研究の發表から始められました。氏は人絹パルプを商品學上から顯微鏡的に研究され日本の人絹パルプは大部分エゾ松より成る事を指摘されました。その後で一聽講者からエゾ松とトド松の差違に就て小原氏の說と相反する樣な研究結果を發表して質問がありました。最後に本會の幹事である阪大理學部の吳祐吉氏の纖維研究に對する顯微鏡X線兩方法の併用と云ふ講演が行はれました。現今纖維素の構造に就ては所謂總狀ミセル說なるものが一般に信ぜられてゐるが之を研究するには先づ纖維素のX線的研究方法に對して定量的根據を與へこれに依つて其の結晶性部分の構造を明にしアモルフアスの部分はモーレの方法に從つて纖維素の螢光染料にて染色して之を光學的に研究する事に依つて其の構造を研究して見たいと結言されました。續いて京大工學部の喜多源逸氏から閉會の言葉があり此の時氏は眞島氏と同樣特に日本の研究者が一致協力して研究に從事す可き事を强張されました。さて此の演題に就て見るも明なる如く其研究對照とする處は實に纖維素の構造性質に關する物理化學的の檢討であつて此の物理化學の世界には如何に活氣に滿ちた華やかさが溢れて居るか何人も想像され得るでありませう。小生も又自分の周圍の所謂古典的化學のあまりにも地味なるに驚いた次第です。終りに學校では井上、金子兩教授が上京されたので代つて小生が此の會に出席させてもらつた次第です。お蔭でこうした學界の先端的空氣に觸れ得た事を喜んで居ります。（細川生）

新任挨拶

拜啓　陽春之候愈々御多祥之段奉大賀候、陳者小生儀今回本校に勤務致す事ニ相成候に就ては今後宜敷御指導御鞭撻賜度奉懇願候先は乍略儀以紙上御通知旁々御願迄如斯御座候　敬具

昭和十二年五月　志賀章雄

新任挨拶

拜啓　時下陽春之候愈々御多祥之段奉大賀候、陳者私儀母校會計課に勤務致す事ニ相成候間今後宜敷御指導御鞭撻賜度奉懇願候先は不取敢御挨拶旁々御願迄如斯御座候　敬具

昭和十二年五月　宮本英雄

新任挨拶

拜啓　時下陽春之候愈々御多祥之段奉大賀候、陳者私儀都城市北諸縣郡是製絲株式會社勤務中は一方ならざる御厄介に相成奉深謝候、今回同社を退職仕り母校蠶絲化學教室に勤務する事ニ相成候間今後共宜敷御指導御鞭撻賜度奉懇願候、先は乍略儀以紙上御挨拶旁々御願迄申述度如斯御座候　敬具

昭和十二年五月　田上忠義

新任挨拶

拜啓　時下陽春之候愈々御多祥之段奉大賀候、陳者私儀母校養蠶科在學中は一方ならざる御厄介に相成り誠難有奉深謝候、御蔭樣にて今般左記の如く母校に副手として勤務致す事に相成候に就ては今後共宜敷御指導御鞭撻賜度奉懇願候、先は不取敢乍略儀以紙上御禮旁々御挨拶迄如斯御座候　敬具

昭和十二年五月　鈴木俊夫

新任挨拶

謹啓　陽春之候各位愈々御多祥之段大賀候、陳者小生儀母校養蠶科在學中は格別の御懇情を忝うし誠に難有奉深謝候、今回御蔭樣にて今般左記の如く母校に副手として勤務致す事に相成り候間今後も舊倍の御指導御鞭撻賜度奉懇願候、先は乍略儀以紙上御挨拶迄申述度如斯御座候　敬具

昭和十二年五月　病理學教室　兒玉新一

新任挨拶

謹啓　時下陽春の候各位益々御多祥の段奉賀候陳者私儀母校養蠶科在學中は格別なる御懇情御指導に預り誠に難有厚く御禮申上候、御蔭樣にて今般左記の如く母校に副手として勤務致す事に相成候間今後共不相變御指導御鞭撻を賜り度偏に御願申上候先は乍略儀以紙上御禮旁々御挨拶迄如斯御座候　敬具

昭和十二年五月　圃場部　武井仙太郎

新任挨拶

拜啓　時下新綠の候千曲會諸兄益々御清祥の段奉賀候、陳者小生儀今回上田蠶絲專門學校養蠶科を卒業致し引續き學校內化學第一教室に勤務致す事に相成候間何卒今後共御指導御鞭撻爲被下度願上候　敬具

昭和十二年五月　小木曾眞佐雄

新任挨拶

拜啓　新綠の候ニなりました皆々樣には益々御多祥の御事ニ存じます。陳者私儀母校在學中は種々御厄介になり誠に有難う御座いました。今回御蔭樣にて母校製絲科に教婦として採用して頂くことになりました。今後共倍舊の御愛顧ニ御鞭撻を御依賴申上げます。先は略儀ながら紙上を以て御挨拶申上げます。

昭和十二年五月　教婦養成科第五回卒業生　磯村敏子　關かほる

本會記事

本會日誌

四月十六日　内務大臣及名古屋遞信局宛時報發行日變更届提出す。
四月十七日　東海千曲會總會開催せられ倉澤理事出席す。
四月二十三日　朝倉昇氏衆議院議員立候補に付激勵電報發信す。
五月五日　針塚會長の逝叙祝賀會開催す。

會費領收（五月五日現在）

昭和十一年度分通常會費納入者
（○印は蠶絲學雜誌代共）
高橋　氾一（蠶八）○西山　市三（蠶九）
○周　元功（蠶七）○平岡　英司（蠶廿）
上野　榮仁（絲三）桑木　正義（絲廿三）
今村與志郎（紡五）藤井　政義（紡六）
藤澤喜一郎（紡十一）細井　吉明（紡十四）

昭和十二年度分會費納入者
○木内　茂雄（蠶十六）○富士　巖（絲廿四）

入會金納入者
完納者
富士　巖（絲廿四）
金拾圓也　松本　浩（紡十六）
金五圓也　岩崎　正典（紡十六）
植村　滿義（蠶廿四）
一時金拾五圓也　池田忠次郎（絲七）
金拾五圓入

蠶絲學雜誌代納入者
昭和十一年度分　齋藤　菊雄（蠶六）
金壹圓也　川合軍之助（絲一）
同

清水先生記念品贈呈資金寄附者氏名　第五回

金參圓也　濱香三　鈴木　敎吾　高田茂重郎
金貳圓也　清水保　竹内　榮
橋本和夫　吉松千秋　椎尾藤良男
高木三治　河合正　小澤利雄　寺井子藏
金壹圓五拾錢也　菅尾源治
金壹圓也　關只齊　横内豊彦　今村與志郎
渡部齊　藤猪之作　立木一千雄
永田平　乾正　齊藤菊雄
山内龍一　岡潔　市川敏三　北島正生
大塚富雄　宮下和三郎　岡村源　鈴木力
内山鶴雄　吉田義夫　石原蕭洲　淺治裂男
村島徹　丸山力藏
北原基　北澤周一　宮川繁治
金五拾錢　輪貞德
右合計金五拾四圓五拾錢也
累計金貳百參拾七圓也

早川先生記念品贈呈資金寄附者氏名　第八回

金壹圓也　古東　幹太
累計金六百九拾壹圓九拾錢也

支會通信

飯島正胤氏第一種功績章を受く

大日本蠶絲會第三十二回總會は閑院總裁宮殿下の台臨を仰ぎ四月一日熊谷市東小學校で開催されたがその席上小縣蠶業學校教諭飯島正胤氏（蠶二）が第二種紅綬功績章を授與された。

南滿洲海城にて

南滿少壯千曲會

校長閣下始め御一同先生の御健康を御願申上候。今日安東の上兼君當地に出張して來り飲んだ〳〵百匁卅三錢のすき燒で御酒は未だ五升目少々殘つて居りますよ。匪賊のスキヤキより大分オイシイです。（本間）

上兼君安東より出張、本日本間茂銑氏新家庭に突入、新夫人を前に大いに氣焔を上ぐ。豚一匹を四人で平ぐ。本間、本居、上兼、小松、皆健在なり。益々千曲會の當地發展を誓ふ。ヤリマスゾ、命を堵しても。（小松）

上兼之有、野に悪戰苦闘致し居り候。意氣盛んなり。（上兼）

在學中は種々有難う御座いました。元氣でやつてゐます。（本居）

（四月三日千曲會宛）

牡丹江、圖們より

栗栖　超

點々と殘る雪と白樺の密林を拔けた國際列車は僕を哈爾賓から牡丹江に運びました。新興牡丹江の町も昨秋以來厳寒の内に冬眠して居つたものと見えて少しも變化なく折からの解氷期は實に泥深く道路をこはして一歩の外出すら許しません。二重ガラスの窓に映るネオンが水田の様な町にうるんで見えました。

南へ寧安と云ふ處に着き此處でも雨にあつて、おまけに流氷に橋を奪はれ散々な目に會ひました。やつと仕事を終へてけふ新京を出てから七日目に圖們に着いたのです。豆滿江の水は雪が解け水がまぢつて物凄く渦巻してゐます。この向ふは朝鮮、手に取る様に見える祖國の山々鮮童の唄ふアリランも哀れです。皆様の御健康を祈りつゝこれから新京に向ひます。さようなら、豆滿江のほとりにて。

（卯月十九日、千曲會宛）

訃報

故井出滿藏氏御遺族よりの禮狀

拜啓　此の度はいろ〳〵御親切に御取計ひ下されまして皆々様の御心添澤山に頂く深謝奉り候、早速佛前に供へ申し候、故人も定めて滿足感謝致し居る事と存じ候、千曲會の皆様にも何かと思ひめぐらせど考へもつかず茶菓なりと召上り下され度同封御送り致しせめては感謝の御印迄にかへ度と存じ候へば何卒御受納下され度候、家族一同からも宜敷申傳へ候、先は御禮御挨拶まで　かしこ

三月廿六日　井出さだ子

故權寧九氏御遺族よりの禮狀

復啓　時下陽春の候益々御清穆之段奉慶賀候、陳者客年愚息寧九死去に際し千曲會より御叮嚀なる御弔電を頂き當時は心落つかず物に取り込み會員各位には一々御通計御返禮も申し上兼誠に恐縮の至りに不堪候、然るに今般一年忌に際し又會員各位より御懇篤なる御手紙並に過分の御香奠を賜はり難有厚く御禮申上候、嘸かし地下の愚息も定めて喜び居り候事と被存候、重々の御厚情に對しては衷心より感謝罷在候、早速御禮申上げる筈の處合憎他出致し居り今日迄遅延仕り洵に申譯無之深く御詫申上候、先は以書中御禮申上度如斯御座候　敬具

四月二十四日　父　權永鎬

故高森行雄氏弔慰金報告

金壹圓也
寺井子藏　近藤清一　丸山力藏
岡享四郎　勝田清三郎　大岩巖
藤澤喜一郎　野間直之　野口新太郎
香山清和
金貳圓五拾錢也
榊信夫　近藤義信　鈴木一郎
藤井爲五郎　村橋快　細井政吉
右合計金拾貳圓五拾錢也

因に同氏弔慰金は本月末を以て取纏め御遺族に贈呈可致候間序を以て御知らせ申置候。（野口）

志賀章雄（現職）本校學生課（住）本校官舎
小山滋（現職）昭和十二年四月十三日死亡
春日井新一郎（舊職）在外研究中
廣川正治（舊職）
竹下文英（舊職）
清水達太郎（蠶一）
大石卓爾（蠶二）
中山鑑一（蠶三）
貞包新（蠶六）
山本岩三郎（蠶七）
中田太郎（蠶七）
中川博司（蠶八）
津野善衛（蠶三）
佐村和夫（蠶一四）
新井宇之輔（蠶一五）
倉澤文夫（蠶一九）
齋藤章（蠶二〇）
青木深（蠶二二）
横澤正雄（蠶二三）
西川晋（蠶二三）
久保田不二夫（蠶二三）
松尾順策（絲四）
高橋康輔（絲七）
清水逸五郎（絲八）
佐藤與四次（絲八）
黒岩覺（絲九）
山本奈良三郎（絲一一）
猪渡傘光（絲一二）
古平庄衛（絲一九）
鳥羽誠（絲一九）
富岡正男（絲一九）
小林進（絲二〇）
松野輝彦（絲二一）
三宅農富榮（絲二一）
市原文雄（絲二一）
鈴木武夫（絲二三）
山本辰雄（絲二三）
清水保紡（紡二）
宇野修次（紡四）
平田清親（紡五）
入井三郎（紡六）
佐久間幸一（紡一〇）
藤澤喜一郎（紡一一）
向井孫市（紡一二）
佐藤一郎（紡一三）
笹川ヨキ子（舊教）
市川光枝（舊教）
山田かなめ（舊教）
伊藤ばる（舊教）
半田ひさ（舊教）

會員動靜（五月一日現在）

（勤）本校學生課（住）本校官舎
昭和十二年四月十三日死亡
在外研究中
（勤）ナシ（住）東京市小石川區小日向台町二ノ二六
（勤）ナシ（住）長野市三輪田町一一番戸ノ一
（勤）ナシ（住）東京市麻布區霞町四
（勤）ナシ（住）靜岡縣磐原郡勝間田村
（自營）茨城縣結城郡西豊田村大字若
（勤）大分縣日田町、片倉日田出張所（住）日田町南豆田
（勤）從前通り（住）長野市北石堂町一〇一八
（勤）從前通り（住）福岡縣筑紫郡大野村福岡縣蠶業試驗場官舎
（自營）東京市足立區下沼田町五八五、電足立三〇九一
（勤）朝鮮忠淸衞道公州、公立農業學校
（勤）山口縣熊毛郡麗田村、石城青年學校（校名改正）
（勤）千葉縣小見川町、千葉縣立小見川農學校（住）小見川町
（勤）台北市、台北帝大理農學部製糖化學教室（住）台北市古亭町二三六堀内總之助方
（勤）新潟縣立村上本町、新潟縣蠶業取締所村上支所内、岩船郡養蠶業組合（住）村上本町飯野
（在學）京都市左京區北白川町、京都帝大農學部（住）京都市左京區北白川別當町五四ノ一中島道方
（勤）群馬縣佐波郡境町、群馬縣蠶業取締所境支所（住）境町大字境六九八貝塚方
（勤）金澤市西御影町、石川縣蠶業試驗場（住）勤務先ニ同ジ
（勤）靜岡市田町、靜岡縣蠶業取締所靜岡支所（住）靜岡市田町一ノ三三大石千吉方
（勤）從前通り（住）東京市牛込區市ケ谷台町六番地
（勤）ナシ（住）山形縣西村山郡白岩町
（勤）横濱市本町五ノ四九、横濱シルク株式會社（住）横濱市中區間門町一ノ四一
（勤）群馬縣碓氷郡原市町、碓氷社原市製絲工場
（勤）松江市、島根縣經濟部農產課
（勤）京都府船井郡園部町、郡是製絲園部工場
（勤）福島縣信夫郡田村、鐘紡笹木野工場
（勤）東京市京橋區二ノ七商榮ビル、宇野商店
（勤）京城府西小門町、朝鮮總督府刑務官教習所
（勤）東京府北多摩郡久留米村南澤學園町、自由學園男子部
（住）東京市杉並區阿佐ケ谷一ノ七五六
（勤）鳥取市古市、郡是製絲鳥取工場
（勤）岩手縣西磐井郡一ノ關町、昭榮製絲一ノ關工場
（勤）都城市天龍通、北諸縣郡是製絲株式會社
（勤）栃木縣下都賀郡、昭榮製絲小山工場
（勤）沼津市高島町、沼津工場
（勤）ナシ（住）東京府下伊豆大島差水地村一番地
（勤）本校紡織科人絹部（住）上田市仙石町
（勤）滿洲國新京大同大街康德會館内、滿洲拓植株式會社事業部助成街
（勤）台灣台中州大甲郡清水街
（勤）西勢三四八、咸鏡南道咸州郡西湖面大厚里、朝鮮鑛業株式會社西湖鑛業所
（勤）福島縣石城郡錦村、昭和人絹綿工場（住）綿工場内菊多寮
（勤）富山縣東礪波郡福野町、吳羽紡績株式會社福野工場
（勤）從前通り（住）大津市膳所中之庄御殿濱
（勤）東洋紡績株式會社（大阪市東淀川區長柄中通四、大阪毛織株式會社）（住）大阪府北河内郡守口町八一
（勤）ナシ（住）上田市天神町
（改姓）高野（住）東筑摩郡麻績村中町
（勤）北佐久郡小諸町、長野縣繭檢定所小諸支所脱會
（勤）ナシ（住）上田市川原柳町

新會員就職先（五月五日現在）

養蠶科第二四回

殷秋松（勤）本校養蠶科遺傳學教室
植村滿義（勤）目下交渉中
小木曾眞佐雄（勤）本校蠶絲化學教室
加藤沼二（勤）目下交渉中
桂元三（勤）朝鮮京畿道水原、朝鮮總督府農事試驗場蠶絲部
兒玉新一（勤）本校養蠶科病理學教室
小柳源一（勤）目下交渉中
齋藤修一（勤）兵庫縣淡路島中川原町、鐘紡原蠶種製造所
鈴木俊夫（勤）本校養蠶科圃場部
武井仙太郎（勤）本校養蠶科原蠶部
多田忠正（勤）岩手縣花卷町、岩手縣立花卷農學校（住）花卷町藤澤町、金子吉郎方
玉田誠三郎（勤）群馬縣多野郡新町、昭榮製絲新町工場
辻義男（勤）朝鮮水原、朝鮮總督府農事試驗場
戸塚一（勤）上田市、長野縣蠶業取締所上田支所
原利夫（勤）本校養蠶科植物學教室
馬場順一（自營）蠶種製造業（住）小縣郡鹽尻村大字上鹽尻五二四
二木三雄（勤）目下交渉中
星野莊次（勤）岩手縣西磐井郡一ノ關町、昭榮製絲一ノ關工場
堀口稻三（勤）福岡市外箱崎町、片倉九州蠶種製造株式會社（住）勤務先ニ同ジ
丸山保夫（勤）西筑摩郡福島町、長野縣蠶業取締所福島支所
宮下弘（勤）前橋市外元總社村、群馬縣蠶業試驗場總社支場
望月藤夫（勤）京都府綾部町、郡是製絲株式會社
本居高行（勤）滿洲國海城、奉天省海城縣公署
横内一郎（勤）南佐久郡野澤町、野澤高等女學校
芳谷富雄（勤）目下交渉中
渡邊雪雄（勤）東京市麴町區大手町、農林省蠶絲局產繭課（住）東京市品川區大井出石町五〇九八井鍋方

製絲科第二四回

青木靜志（勤）ナシ（住）更級郡桑原村東區一七一
赤尾文顯（勤）岡谷市、株式會社笠原組製絲場
安部重（勤）福島縣伊達郡長岡村、多勢丸多製絲場
石松博（勤）名古屋東區千種町高見、愛知織物千種工場（住）名古屋市東區春岡通一ノ二
市村正（勤）鹿兒島市易居町四五、鹿兒島縣繭檢定所
川村千尋（勤）東京市目黑區駒場町、東京帝大航空研究所發動機部
小口正晴（勤）栃木縣小山町、昭榮製絲小山工場
叶澤弘（勤）東京市麴町區大手町、農林省蠶絲局絲政課
黑瀨信勝（勤）島根縣那賀郡都野津町、島根縣繭檢定所都野津支所
小泉辰雄（勤）東京市麴町區大手町、農林省蠶絲局絲政課
小松正敏（勤）京都府宇治町、日本レイヨン株式會社
首藤行雄（勤）埼玉縣本庄町、丸庄製絲會社
多川澄平（勤）松本市、長野縣工業試驗場（住）松本市西埋橋九五四村田方
土屋二三男（勤）東京府立川町、東京府繭檢定所
西原美登（勤）横須賀市、海軍航空廠飛行機部
羽田滿（勤）愛知縣額田郡幸田村、愛知織物幸田工場
土生珀二（勤）鹿兒島市原良町、薩摩製絲株式會社
東畠藤次郎（勤）岩手縣岩手郡本宮村、岩手縣繭絲購買販賣組合
平澤和司男（勤）前橋市、群馬縣繭檢定所
深美政人（勤）金澤市殿町、石川縣生絲檢査所
富士巖（住）山形縣西置賜郡十王村大字本宿二六二六
古田力（勤）長崎縣南高來郡島原町、片倉長崎製絲島原工場
福本貞雄（勤）岡谷市、增澤商店製絲研究部
本庄昇（勤）東京市目黑區駒場町、東京帝大航空研究所（住）東京市世田谷區北澤四ノ五三九、三光莊
三澤讓（勤）新潟縣小田町、新潟縣繭檢定所
三宅靜雄（勤）大垣市本今町、岸和田人絹大垣工場（住）仝上社員合宿所
村上義美（勤）東京都府綾部町、新綾部製絲綾部工場
森福一郎（勤）東京市目黑區駒場町、東京帝大航空研究所發動機部（住）東京市世田谷區北澤四ノ五三九、三光莊
山口直吉（住）横濱市中區御所山町一二
山寺豐一（勤）本校絹紡織科
和田利章（勤）山口縣防府市三田尻、福島人絹株式會社（住）仝上福島莊

絹紡織科一六回

岩崎正典（勤）富山縣東礪波郡福野町、吳羽紡績福野工場（住）工場內自治寮
岩本一郎（勤）東京市日本橋區小舟町一丁目、長瀨商會東京支店機械部
北澤茂樹（勤）大津市石山、東洋レイヨン株式會社（住）東洋レイヨン第二男子報德寮
久芳大三（勤）愛知縣起町三條、橋本毛絲紡績株式會社
小林典夫（勤）兵庫縣加古郡加古川町、日本毛織加印工場東工場（住）仝工場親交寮
迫繁（勤）郡山市蓬山町、日東紡績第一工場
佐藤佳良（勤）大垣市本今町、岸和田人絹大垣工場（住）仝工場社員合宿所
下世古廣志（勤）岡崎市、日本レイヨン岡崎工場（住）岡崎市日名町、日本レイヨン社宅一五號
瀧澤通（勤）岐阜市本莊海草、日本毛絲紡績第二工場
千吉良長二（勤）埼玉縣北足立郡神根村大字根岸、東洋毛絲株式會社
花岡政庫（勤）名古屋市西區天神山町二丁目、愛知縣毛織檢定所名古屋支所
平野庄一（住）名古屋市西區柳町二ノ六、宮田方
福島肅（勤）大阪府經濟部工務課毛織物檢査所
松本浩（勤）一宮市外馬引、愛知縣毛織物檢査所一宮支所
村橋增雄（勤）堺市、福島紡績堺工場（住）堺市西港町
諸岡市郎（勤）大阪市、大阪府經濟部工務課毛織物檢査所
矢崎勝（勤）東京市淺草區藏前町三丁目、鹿橋稅務署
矢澤登（勤）岐阜市本莊海草、日本毛絲紡績株式會社大垣工場
柳澤六平（勤）富山縣東礪波郡井波町、吳羽紡績井波工場
尾和博行（勤）東京市世田谷區池尻町二六〇、千代田毛織株式會社

製絲教婦養成科

石川薫（勤）滋賀縣長濱町南吳服、滋賀縣繭檢定所
磯村敏子（勤）本校製絲科
飯森としゑ（勤）東京市杉並區高圓寺、農林省蠶絲試驗場
北澤貴代子（勤）栃木縣小山町、栃木縣繭檢定所
黑澤壽子（勤）上田市、笠原組上田工場多條部
吳瑛（住）中華民國江蘇省武進縣
關かほる（勤）本校製絲科
中條八千代（勤）滋賀縣長濱町南吳服、滋賀縣繭檢定所
深町てる（勤）鳥取縣氣高郡湖山村、日本製絲湖山工場
藤田きみ子（勤）本校製絲科（住）上田市白銀町宮山四郎方
藤森ふじ子（勤）愛知縣知立町、岡本製絲場
保科孝（勤）朝鮮水原、朝鮮總督府農事試驗場
松田豐子（勤）東京府青梅町、東京府是製絲株式會社
峯村芳子（勤）鳥取縣氣高郡湖山村、日本製絲湖山工場
宮下富子（勤）滋賀縣長濱町南吳服、滋賀縣繭檢定所
柳澤ときわ（勤）高知縣安藝郡奈半利町、丸三藤村製絲株式會社
柳澤豐子（勤）熊谷市、埼玉縣繭檢定所
山崎かよ子（勤）本校製絲科
山寺孝（勤）埼玉縣大宮町、片倉大宮試驗所
吉崎きよ（勤）東京府立川町、東京府繭檢定所
渡邊きよ（勤）北佐久郡小諸町、長野縣繭檢定所小諸支所

お願ひ

左記會員の所在不明です。御存知の方は御通知下さる樣お願ひ致します。

深田銀作（蠶一）　內山嘉高（蠶一三）
吐世高義（蠶一三）　若林榮（蠶九）
藤井宗雄（蠶三）　鳥潟鳴三（絲二）
井谷信一（絲四）　河野蕃（絲七）
山口正紀（絲七）　吉開亮一（絲七）
淺井春雄（絲八）　大根田丑一郎（絲八）
青木友彌（絲二）　高柳春雄（絲三）
小島求（絲三）　足立勝彥（絲三）
吉野利一（絲三）　八木喬（絲八）
林龜一（絲九）　清永巖（紡一）
黑岩君雄（紡一四）

移轉通知

謹啓　益々御隆昌の段奉賀候
私儀今般都合により左記の處に轉居仕り候、上田市在住中は一方ならぬ御愛顧を蒙り深く御禮申上候、尙將來とも相變らず御指導御鞭撻の程偏に御願ひ申上候　敬具

昭和十二年五月

竹下文英

左記
長野市三輪田町一一一番戶ノ一

新任挨拶

謹啓新綠の候に御座候處各位愈々御清適の段奉慶賀候、陳者小生山梨縣在職中は公私共多大の御懇情を蒙り誠に難有奉深謝候今般佐賀縣へ轉任を被命蠶業試驗場長拜命仕り候處卒業以來關東北方面へのみ勤務罷在り候迂生にさり今遙かに九州へ轉勤候事如何にも新規蒔直しの感被致暫らくは基礎智識の勉强を要する事かと存じ居り候、何卒一段の御支援御鞭撻賜る樣偏に奉希上候。乍略儀誌上を以て御挨拶迄申上候　敬具

昭和十二年四月

佐賀縣小城郡小城町
佐賀縣蠶業試驗場
栗原章

千曲會員各位

編輯室より

△滿三ヶ年間編輯部のメンバーとして異常の御骨折に預つた平尾孝平氏は今回小縣郡縣村田中、東部實科中等學校教諭に御榮轉せられたので御辭任の已む無きに至つた。編輯部にとつては非常な打擊であるが御榮轉の事であれば致し方のない次第である。此處に長年月に亘る御骨折を謝すると共に今後の御發展を祈つて已まない。平尾氏の後任として茅野功氏（蠶一九）にお願ひする事とした。前任者同樣御引立をお願ひする。

△第一、二面所載KM生氏の『人織と生絲に就て』の御寄稿を得た事は編輯子にとつて衷心感謝に堪へぬ處である。斯くの如き蠶絲紡績業に關係のある記事の御寄稿は毎回不足を告げ、渴仰久しうしてゐたものである。と御禮を申上げて置いて次に注文がある。それはこの記事も第二面に掲載せる空來山人の『南船北馬錄』も一行二十字に書かれてあつたので編輯上非常に手數が掛つた。何卒一行十八字に書かれん事を切望する。特に『南船北馬錄』は連載の樣に拜察せらるゝ故に一入强請する次第である。

△針塚校長先生が勳一等に昇叙された。勳一等を得られた者現在何人ありや、現官中に何人ありや、更に直轄學校中に何人ありやと考へる時我々にとつて如何に大なる榮譽であるかを痛感する。先生には今後愈々御自愛專一に遊され末長く御指導を賜はらん事を切望する。

この校長先生の榮譽のあつた本校に更にもう一つの名譽が重つた。それは金子先生が蠶絲學賞を得られた事である。本賞を得たる者全部で六氏の内三氏が本校なるは如何に本校が學術研究に精進してゐるかを示すもので限りなき喜しさを感ずる。

△上田市印刷業組合は又々二割値上を發表した。前回と合すれば實に四割の値上である。本紙の印刷代が直ちに之れ丈の値上になつてゐる譯ではないがその都度多少の値上げ行はれてゐる事は事實である。その爲めに册子に變更する事も不能になつたのであるが斯くの如き狀態だと或は頁數も減少せねばならぬかと心配してゐる。然し出來るなら内要丈は減少したくない。頁數を減少せぬ唯一の手段は廣告である。會員諸兄の御利用と御紹介を切望する。廣告を御世話下された方には多少の御禮をする事も考へてゐる。

投稿規定

一、内容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたい。編輯の都合に依り全部又は一部を來月廻しとする事がある。

一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致しません。

一、締切は毎月六日限、特に一月號は一日發行とする爲め二十日限とする。

一、原稿は開封し三錢切手（第四種百二十瓦）迄を貼布して送附し通信文があつたら別に葉書等にて通知されるが得策である。

一、必ず原稿紙を使用し明瞭にお書き下さい。又文句讀點を必ず施して一字分の間隔を置いて下さい。

一、匿名で掲載希望の場合も編輯部丈へは姓名をお明し下さい。然らざる時は遺憾乍ら掲載を見合せる場合があります。

一、圖面や寄せ書は一尺八寸×一尺三寸以内とし必ず白紙に墨書して下さい。

一、原稿紙は御請求次第送附す。普通の原稿紙を使用する場合は一行十八字丈書込まれ度い。

廣告規定

寸法／期間	一月	六月	一年
一頁	一三、〇〇円	六四、〇〇円	二六、〇〇円
1/2頁	七、五〇	四〇、〇〇	七〇、〇〇
1/4頁	四、〇〇	二二、〇〇	四〇、〇〇
1/8頁	二、五〇	一三、〇〇	二四、〇〇
1/16頁	一、五〇	七、五〇	一四、〇〇
1/25頁	一、〇〇	五、五〇	一〇、〇〇

但し本會員は七掛とす。

醫療藥品　化學藥品　理化學器械　寫眞材料
上田市海野町
河合藥品器械舗
電話二一七番
振替長野七八四番

2597 春蠶種！熊本長野へ

富豐量卵
定安作蠶
富豐量繭收
良優質絲

國蠶日一一一號×國蠶支一〇七號
國蠶歐一一九號×國蠶支一〇七號
國蠶歐一一九號×國蠶支一七號
國蠶日一八號×國蠶支一七號
國蠶歐一一六號×國蠶支一六號
分離白一號×國蠶支一〇七號

會照御他其績成驗試▷
◁候上申報速第次

五〇六町江大市本熊
組種製野長
電話八九五番
振替熊本二〇〇三番

御來田のお土産は
みすゞ飴　上・のフルーツ
杏ゼリー　チョコレート
晒水飴　黑羊
杏羊羹　クルミ羊羹
信濃そば　果物類　鑵詰
上田市松尾町
上・飯島商店
電話二六〇・二五四

御宴會に御會食に
レストラン
香青軒
明朗な洋室　落付いた和室（數室）
上田市袋町　電話13番

千曲會指定旅館
上村ホテル
上田市海野町
電話三二七番

千曲會指定旅館
泉温所別
花屋ホテル　電話一三番　三一番
柏屋別莊　電話一二番
茶代廢止
御宿料二圓

優良蠶種豫約募集
昭和十二年度秋、晩秋蠶種
×國蠶日一一一號
×國蠶支一〇七號
×國蠶日一一一號
×浙江
×龍華
×浙江仙
昭和十三年春蠶種
×國蠶歐十九號
×國蠶支十七號
×國蠶歐十九號
×國蠶支一〇七號
×龍華
×浙江仙
×國蠶歐十六號
×國蠶支十六號
優良品種、適地分場、設備完全
廣島縣御調郡奥村峡目八七六
蠶種業　小川保
電話市村局一一番
振替（廣島二四六番　大阪三〇七六三番）
電報別便配達料不要